

# 平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年4月7日

研究・研修課題名	呼吸ケア指導士（初級）資格更新 呼吸ケア指導士（上級）資格取得のための研修補助
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部
研究・研修責任者名（所属）	原 祐樹
共同研究・研修者名（所属）	原 祐樹

## 目的及び方法、成果の内容

### ① 目的（800字程度）

呼吸ケア指導士は日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会が、地域において指導的な役割の人材を支援していく同学会の認定資格である。これは認定資格取得後5年毎の資格更新を義務づけられている。

本研修者は上記の資格を有しており、資格更新に必要な単位および、上級資格取得に必要な単位を学術大会での発表・参加により取得することを目的とする。

### ② 方法（800字程度）

年1回開催される本学会学術大会に参加し、学会認定士の更新および上級資格に必要な単位取得する。

平成28年10月9日にパシフィコ横浜で開催される、第3回呼吸ケア指導士スキルアップセミナーに参加、翌日の第26回日本呼吸器ケア・リハビリテーション学術大会に参加、発表を行い必要ポイントの獲得を行う。

### ③ 成果（データ等の図表を入れて2000字程度）

第3回呼吸ケア指導士スキルアップ研修に参加し、呼吸ケア指導士認定更新単位20単位を獲得した。また第26回日本呼吸器ケア・リハビリテーション学術大会に参加し、呼吸ケア指導士（初級・上級）参加単位15単位の獲得、発表単位15単位計30単位を獲得した。

学会の内容としては特発性間質性肺炎（以下：IPF）の薬物治療の最前線や呼吸リハビリテーションの方法、呼吸器疾患の栄養療法、ICUにおける合併症の頻度と予防についての講演を受講した。

IPFの薬物治療に関しては、抗繊維化薬の変遷を聴講し、演者の施設で行われている、「Toho Rehabilitation Interstitial Pneumonia Study：TRIP study」の概要を聴講し、定期的にカンファレンスを行い、呼吸機能を考慮した上でのオーダーメイドのリハビリテーション展開について学習することができた。またリハビリテーションの適応としてもMRCスケール2・3のIPF患者は比較的リハビリテーション効果は出やすいが、ベッド周囲での呼吸困難感の出現するMRCスケール3・4レベルの方に関しては呼吸コントロールが困難になりやすくリハビリテーションの実施が困難になる場面が多いので適応の判断の必要があると学習することができ、当院でも検討される必要があると考えられた。

栄養療法としては、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の話であったが、全身炎症疾患と捉え、抗炎症作用としての $\omega$ 3系脂肪酸含栄養剤の使用、蛋白同化促進としてBCAAの使用などの学習をできた。BMIなどでは輸液などで変動が大きく、IN BODYやDXAなどで筋量の評価を行って予後判定を行うことの有効性を学習することができた。

ICU 関連合併症に知っておくべき頻度と予防としては、項目として人工呼吸器関連肺炎（VAP）、人工呼吸器関連肺損傷（VALI）、ICU 関連筋力低下（ICU-AW）、カテーテル関連血流感染（CRBSI）、カテーテル関連尿感染（CAUTI）、鎮痛・鎮静に関連する合併症（ASAC）、ICU 関連せん妄（ICU-AD）、ICU 関連嚥下障害（ICU-ASD）などを学習することができた。またICUの平均在室日数は6日前後であり、ICU退棟してからリハビリを介入した群とICUから介入した群では、退棟後開始群において長期にリハビリテーションが必要であったとの報告があり、現在リハビリテーション部でも行っている、ICUの午前専従によって患者を早期からトリアージし、開始して行こうとするシステムの重要性を再確認することができた。

学会発表としては「島根県理学療法士の呼吸リハビリテーションに対する意識調査」と題して発表を行い、各県での職種間での知識・意識の差の問題について議論することができた。